秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館
〒010-8502 秋田県秋田市手形字大沢 28-2　TEL:018-889-2461　FAX:018-889-2465　URL:http://mus.akita-u.ac.jp

博物館だより
No. 219 2013. 7

ミニミニマインズ

平成 25 年度　第 2 回 鉱業博物館市民向け開放講座
韓国の農水路および最新プロジェクト情報
講師：川上 洵研究員

講演中の
川上先生

平成 25 年 7 月 5 日（金）、当館 3 階講堂にて第 2 回鉱業博物館市民向け開放講座が開催されました。講師は博物館研究員、秋田大学名誉教授の川上洵先生でした。

今回の講演は、韓国の農水路の事情とセマングム（新万金）干拓事業という最新プロジェクトの情報についてお話をしていただきました。農水路については、地震の多い日本の農水路との比較や、韓国では農水路のひび割れ、漏水、摩耗、ジョイント部分の劣化が問題となっていることについて説明していただきました。セマングム干拓事業は、穀物の自給率を上げるために国土拡大を目指した韓国史上最大の土木事業で、私たちに身近な八郎潟の干拓事業も参考にしてプロジェクトが作られています。その他にも韓国の基礎知識についても説明してくださり、とても興味深い内容でした。参加者の方も積極的に質問しており、熱心な様子が見られました。

質問の様子
「水路に砂が沈殿しないためにはどれくらいの勾配が必要なのか？」という質問に、「水が流れることを目的としているため、勾配はあまり考慮しておらず、定期的に砂を落とす作業もしている。」と答えていました。

花いっぱい計画を実施しました

平成25年6月11日（火）に当館に続く坂道から入口までプランターを設置し花を植えました。赤・白・ピンクのベゴニアとオレンジ・黄色のマリーゴールドです。サイエンスボランティアのみなさんと実習生、当館職員が力を合わせ当館を彩りました。お越しの際は色とりどりのお花もお楽しみください。

花を植えるのは大変だったけど、花で飾られた道を見ると花がとてもきれいで参加してよかったと思いました!!

平成２５年度 第５回
サイエンスボランティア講習会

「地球生命史セクション」
講師:山﨑千恵子研究員

今回は主に２階化石展示コーナーについての講習でした。講習では秋田県で産出する化石を中心に、実際に館内を回りながらパネルや展示物の解説について学びました。多くのサイエンスボランティアの方が参加し、皆さん意欲的に取り組んでいました。

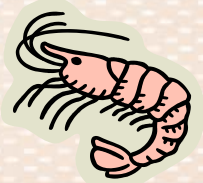
秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館
〒010-8502 秋田県秋田市手形字大沢 28-2　TEL：018-889-2461　FAX：018-889-2465　URL：http://mus.akita-u.ac.jp

寄贈品の紹介－男鹿の石焼き鍋－

桶に入っている石は溶結凝灰岩という岩石で、石焼き鍋に使われます。石焼き鍋とは、秋田杉の桶に男鹿近海でとれた魚介類や地元産の野菜を入れてみそ仕立てにし、熱した石を入れて一気に沸騰させる豪快な郷土料理です。硬くて割れにくい石が石焼き鍋に適していることから、溶結凝灰岩がよく使われています。これは男鹿半島の入道崎付近に分布する地層の中で最も古い 5000 万年前の赤島層から産出するデイサイト質溶結凝灰岩です。割れ目やすき間が少なく、緻密な組織であるため、非常に硬くて割れにくい特徴があります。今回実際に料理に使われていた桶と石を、男鹿温泉郷元湯雄山閣様より寄贈していただきました。

1 階の新着標本コーナーに展示中！！

←このように料理に使われます



博物館実習、継続中！

６月２５日（火）に新屋高校の１年生約２００人が見学に訪れ、博物館実習生５人が案内実習を行いました。実習生各自で案内したい展示品を決めました。改めて展示品について勉強し理解するよい機会となりました。今回案内した展示物は宝石コーナー、藍銅鉱と孔雀石、砂漠のバラ、輝石、アンモナイトでした。この展示品の説明が必要な場合はご連絡ください。

そのほかにも実習生は、標本ラベルの修正や新着標本の紹介など、博物館に関わる様々な活動を行い、学芸員資格の取得に向けて励んでいます。

～感想～
- 高校生に興味を持ってもらえるような案内をするのが難しかった
- 練習はしていたが実際に行ってみるととても緊張した。

無料開放のお知らせ

秋田大学オープンキャンパスにあわせ、終日無料開放いたします。ぜひお立ち寄りください。

平成２５年７月２７日（土）
９：００～１６：００

秋田大学子供見学デー 鉱業博物館を見学しよう！

今年も子ども見学デーが開催されコースの一つとして鉱業博物館内を見学できます。

お土産もあるよ

平成２５年８月７日（水）
１０：１０～１１：４０

旺文社『蛍雪時代』に掲載されました

2名の実習生が取材時に案内を行い、その様子が『蛍雪時代』7月号（6月14日　発行）に掲載されました。特集は3ページにわたり、鉱業博物館内の各階ごとの展示の内容や、ミュージアムショップについて、たくさんの写真を使って紹介されています。

編 集 後 記

今月号は、博物館実習生の１班が記事の執筆・編集を担当しました。記事の中では、花いっぱい計画や新着標本の展示など、実際に私たちが参加したものもあり、とても内容の濃い時間を過ごすことができました。ミニミニマインズの編集に関しては、見てくださる人が見やすいと思えるように、レイアウトなどを班員それぞれが試行錯誤しながら考えていきました。無料開放や子ども見学デーのお知らせも記載しているので、一人でも多くの方が鉱業博物館を訪れてくれれば幸いです。ミニミニマインズ７月号を見てくださり、ありがとうございました。

（伊藤・大森・海谷・齋藤・坂本）